

世界湖沼会議に関する要望と質問

茨城県知事 橋本 昌 様

2017年2月13日

NPO 法人アサザ基金

代表理事 飯島 博

霞ヶ浦での世界湖沼会議開催が決定されてから既に2年以上経っていますが、私達市民団体や一般市民には企画や準備がどの程度進んでいるのか、全くと言っていいほど情報が入っていません。県の基本方針では、市民と研究者、企業、行政の対話が強調されていますが、市民や市民団体が疎外され、一部の関係者だけで会議の準備が進められているのが現状です。

情報が得られない状況の中ですので、憶測を含んだ形にならざるを得ませんが、世界湖沼会議についての質問と要望をいたします。

今回の湖沼会議には、質問や要望をしたい項目が多々ありますが、特に懸念される課題に絞って、主催者である茨城県に質問と要望をします。

2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の放射能漏れ事故は、その後の経緯を世界中の人々が注視してきました。事故の影響は、霞ヶ浦をはじめ東日本の湖沼にも大きな影響を及ぼしました。

今回の世界湖沼会議は、まさに未曾有の原発事故の影響を受けた地域内での初めての開催となります。本来ならば、今回の会議では「原発事故と湖沼環境保全」がメインテーマになってもおかしくはない状況ですし、国内外の多くの人々が当然メインテーマになると考えていると推察されます。

重大な原発事故を起こした当事国で開催される第17回世界湖沼会議では、原発事故による湖沼や河川水系への影響や対策の現状、今後の課題などについて、会議の場で報告し、今後の湖沼環境保全に活かすための幅広い議論を行う必要と義務があると考えます。

湖沼会議において、原子力災害と湖沼といったテーマを取り上げないとすれば、かえって不自然ですし、都合が悪いから意図的に議論を避けたのではないかと解釈されてしまう恐れさえあります。議論を避けることは、会議にとってむしろマイナスになるのではないでしょうか。

私達は、今回2018年に霞ヶ浦で開催される世界湖沼会議について、以下の質問と要望をいたします。

（質問1）今回の世界湖沼会議の主催者として、原子力災害と湖沼といったテーマでの議論の場を設ける方針や考えをお持ちでしょうか。

（要望1）霞ヶ浦をはじめ東日本の湖沼や河川等の水環境に原発事故が及ぼした影響や今回講じられた対策、見えてきた課題等について、各国の湖沼関係者等と議論する、原子力災害と湖沼をメインテーマにしたシンポジウムやセッションを、2018年開催の第17回世界湖沼会議内に設けてください。

上記の（質問1）及び（要望1）について、2017年3月13日までに文書にてご回答ください。

NPO法人アザ基金 〒300-1222 牛久市南 3-4-21
電話 029-871-7166
E-mail asaza@jcom.home.ne.jp